

『第2回 適切なケアマネジメント手法に係る研修』に参加して

報告者：老人居宅介護支援センターくれは苑 松井 裕美

令和6年5月23日、富山県民会館にて「第2回適切なケアマネジメント手法に係る研修」が開催されました。講師 富山県介護支援専門員協会常任理事野村明子氏から「新たな課題分析項目」「適切なケアマネジメント手法」を理解し実践できるスキルを習得できるよう、分かりやすく講義いただきました。要介護高齢者の増加やニーズの多様性、ケアマネジメントにおいて取り扱う社会資源の範囲が広がっている中、介護支援専門員には今まで以上に幅広く情報を収集、分析してケアマネジメントを推進していくことが求められています。



講師 野村 明子氏

ケアマネジメントの標準化が目指しているのは、誰が担当ケアマネジャーになっても、利用者からみて一定水準のマネジメントを提供できるようになることであり、適切なケアマネジメント手法を活用することで ①想定される支援の見立ての抜け漏れを防ぐこと、②多職種連携を促進すること、③今後の意向が分かり目標が具体化すること、④利用者や周囲の人が変わる効果が期待できることを学びました。実際に演習で点検シートを使用してみると、自身の情報収集の抜け漏れが多く、深く掘り下げて確認が必要な項目が見える化できました。

研修前は自己点検シートで膨大な項目を1人1人確認・把握することは業務増に繋がるのではないかとの印象もありましたが、ケアマネジャー1人で情報を埋めたり考えたりするのではなく、利用者や多職種、色々な方に協力してもらいながら意見を集めて、整理するためのツールとして活用してみたいと思います。



※ この研修は集合とオンラインによるハイブリッドにて開催されました。